

5

お 名 前	性 別	満年齢	終戦時の年齢	現 住 所
梅澤 伝 うめざわ つたえ	男 性	8 9 歳	2 4 歳	富岡東部

① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。

満州熱河省の承德市にいた。

② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。

通信兵から直接聞いた。集合することはなかったし、上官からは何もなかった。

③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

これはダメだと思っていた。ロシアの支配下にあった蒙古（モンゴル）兵が入ってきていたし、満州の住民も情報が早く、日本の敗北を分かっていた。

④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

「モンゴルでの抑留生活」

私は、昭和16年に満州へ出征した。所属は、独立守備歩兵13大隊の第1中隊で、機関銃を担当した。目的は満州国内の防衛で、おもに熱河省内外の防衛が任務だった。4年に及ぶ任務では、満州国境を侵犯する共産第八路軍*1の討伐もあり、のべ22回の戦闘を経験した。多くの戦友を失い、自分も腰に差していた短剣の柄が鉄砲の弾で飛ばされるような怖さを味わった。

終戦直後、私たち1個小隊は承德市にいて武装解除し、自炊していた。武器を捨て、大事にしていた軍旗を燃やした兵士は、泣いて帰ってきた。しばらくして、金モールのふさをつけたモンゴルの軍司が5名やってきて、私たちは連行された。

どこへ連れて行かれるのか全く分からず、不安だった。バイカル湖まで列車で行き、降ろされた。そこからはトラックでの移動となった。着いたのは、シベリアではなく、モンゴルのウランバートルの收容所だった。その日本人收容所には、約1,000名以上の捕虜がいた。

食事は、朝は厚さ1cmぐらいの食パンひと切れだけで、昼と夜は、湯のみ1杯のあずきかこうりゃん*2のおかゆだけだった。このウランバートル收容所に3ヶ月ほどいたが、いつも空腹だった。栄養失調で、朝起きると冷たくなっている人もいた。羊毛工場の仕事は、羊毛を乾燥させるのが日課だった。いっしょに仕事をしていた蒙古の女性はとても親切で、飲み物やおやつを分けてくれたりした。



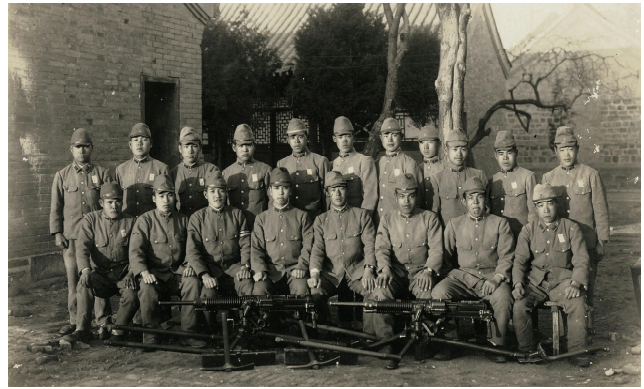
▲ 熱河省立宝物館の前で

*1 日本軍の進出に抵抗する中国共産党の軍隊で、抗日戦争の主力となっていた。

*2 中国東北部の寒冷な気候に適したイネ科の植物で、食用だけでなく飼料作物としても使われる。

他の人たちは、レンガ作りをしたようで、大変だったと聞いた。

3ヶ月後、私を含め10名が転属となり、軽便鉄道*1の補修が仕事となった。線路の修理で、指導はロシア兵だった。監視はモンゴル兵で、歩哨の兵士は結構優しくて、物々交換をすることもあり、監視の目も厳しくはなかった。人員点呼を任せられた時もあった。



▲ 機関銃部隊 昭和18年頃 熱河省 (写真：梅沢さん)

シベリアの過酷な抑留生活とは、かなり異なる現実だった。私は10名のまとめ役でダーリンと呼ばれており、連絡や交渉を任された。私たち10名の捕虜は、「明るく朗らかに」をモットーとし、進んで一生懸命働いた。そのうちに信頼されたのか、交渉すると食糧を2倍に増やしてくれたり、交代で休ませてくれたりした。嫌な顔一つせず、元気よく仕事に飛び出していく私たちに、モンゴル人は好感を持ってくれたようだ。

仕事は、川を下ってきた材木を寄せて、港に横づけさせる仕事になった。交代で仕事のできたので、これもそれほどの重労働ではなく、私たちは体をこわすこともなくなった。服を煮沸消毒できたので、シラミもわからず清潔だった。

抑留生活は2年あまり続いたが、ニュースはロシア兵が時々教えてくれて、帰国の予定もロシア兵が知らせてくれた。自分が班長だったためか、ロシア兵とも親しくなり、帰国の際にはロシア兵からシャツをプレゼントしてもらった。こんなことがあっていいのかと、目を疑った。私たち10名は、昭和22年11月にウラジオストクに集まり、いっしょに函館に上陸した。昭和16年4月29日に満州に渡って以来、実に6年半ぶりの日本だった。

シベリアでの抑留生活の過酷さや悲惨さは後に知ったが、モンゴルでの抑留生活は恵まれていたといえる。私の場合は、ロシア兵にもよくしてもらったし、モンゴル兵にも好意を持たれた。モンゴルの7、8歳の子どもたちは、「ヤポン、サムライ」という言葉を知っていた。聞くと、サムライは2mぐらいの刀を腰に差していたという。元寇の頃のことが、言い伝えで今も残っているのかと思った。そんなモンゴル人だから、日本人に対して特別な気持ちがあったのかもしれない。私は、モンゴル人であれロシア人であれ、人情が通じる民族だと今も思っている。抑留生活でも、地獄ばかりだったとは思えないでほしい。

*1 建設費用を安くするため、軽量のレール等を使った。そのため、速度がおそく輸送力も小さかった。